



■「村民学」で育成をめざす資質・能力

郷土を愛する心をもって自ら未来を切り拓き、新たな価値を生み出していく力

～「白川村の担い手」から「未来社会の創り手」へ～

ふるさと学習

本物に触れる豊かな体験を通して、白川村、村民の中に根付いている魅力を体得し、表現していく力

ビジネス学習

社会の中にある「困り感」から課題を見だし、それらを解決するために仲間と協働して挑戦したり失敗を生かしながらやり抜いたりすることを通して、社会の一員として新たな価値を創り出していく力

■各学年で育成をめざす資質・能力

学年	村民学	
	ふるさと学習	ビジネス学習
	(「白川びと学」と融合) *体験を通して気づき、学ぶ *ふるさと白川村についての知識・技能を学ぶ *白川村の創り手の生き方、考え方を学ぶ	(アントレ・プレナーシップ教育) *起業家的なマインド、資質・能力を引き出す学び *困りごとに目を向け、解決策に挑む学び *発表や完成を目的とせず、トライ&エラーを通じて成長する学び
1	◆白川村の自然の好きなどころを見つける(30) ○白川村には豊かな自然が多くあることを理解する。 ○山・森・川・水・空・生き物・植物・風景や季節の変化など、白川村の豊かな自然に親しむことを通して、白川村の自然の好きなどころを見つけ、表現することができる。 ○探究する中で、自分のよさに気づき、白川村の自然について、進んで家族に伝えようとする。	◆困り感(課題)を見つける(4)「これってどうしてつくられたの?」 ○自分や身近な人が、身のまわりのことに困り感を持っていることを理解する。 ○身のまわりの困り感について、調査して気付いたことや考えたことを、クイズによって表現することができる。 ○探究する中で、比較しながら調べることを通して、進んでクイズで表現しようとする。
2	◆白川村にある自然を生かした仕事や活動の体験と継承「〇〇の達人」(30) ○白川村には、豊かな自然を生かした仕事や活動があり、それらを守る人の思いがあることを理解する。 ○自然に関わる活動を体験することを通して、豊かな自然を未来へ残すために自分たちができることを考え、友だちと伝え合い、行動することができる。 ○探究する中で、自然を守る人の思いのよさに気づき、白川村の豊かな自然を残すために自分ができることを考え、進んで友達に伝えようとする。	◆身近な困り感(課題)を見つけ、解決策を考えよう(5)「家族の困りごとを解決する発明!」 ○家族が生活の中で困っていることがあることを理解する。 ○家族が困っていることについて、インタビューを通して取材し、集めた情報を整理して解決方法を考え、家族に伝えることができる。 ○探究する中で、進んで家族の困りごとを解決しようとする。
3	◆厳しい自然の中で生まれた村民の知恵や技の体験と継承「〇〇の達人に弟子入り」(25) ○白川村には、厳しい自然の中で生まれた知恵や技があり、それらを守る人の思いがあることを理解する。 ○厳しい自然の中で生まれた村民の知恵や技を知ることを通して、自然を生かしたものづくりや食文化について考え、実際に試すことができる。 ○探究する中で、白川村の知恵や技、それらを守る人の思いのよさに気づき、白川村で生まれた知恵や技を進んで試し、継承しようとする。	◆社会の困り感(課題)を見つけ、解決策を考えよう(10)「コップのデザインアイデアピッチ大会」 ○世界中で使用されているコップの種類や形には、使う人によって様々なものがあることを理解する。 ○日常で使うコップによる困り感について調査し、調査したことを整理することで、その困り感を解決するためのコップデザインを考え、プレゼンで表現することができる。 ○誰にとっても使いやすいコップデザインについて、粘り強く追究し、工夫しようとする。
4	◆合掌造りに込められた知恵や技の体験と継承(20) ○白川村の合掌造りには多くの知恵や技があり、造り手の思いが込められていることを理解する。 ○継承されている合掌造りの知恵や技、願いや苦勞などを知ることを通して、これまで継承されてきた理由や魅力について考え、合掌造り体験に生かすことができる。 ○探究する中で、合掌造りの知恵や技、それらを守る人の思いのよさに気づき、進んで体験し、継承しようとする。	◆実際の社会の困り感(課題)を解決する実践Ⅰ(15)「旧遠山家 オリジナル商品開発プロジェクト」 ○旧遠山家には、来館者数を伸ばしたいという願いがあることを理解する。 ○旧遠山家のオリジナル商品開発に向けて市場調査し、メンターと商品開発に向けてアイデアを考え、プレゼンで表現し、評価し合うことができる。 ○来館者数を伸ばすためのオリジナル商品の開発に向けて、粘り強く取り組もうとする。
5	◆伝統的な芸能や祭りの体験と継承(12) ◆田作りをしてみえる方に依頼して稲作体験(5) ○白川村には、伝統的な芸能や祭りがあり、それらを守り、未来につないでいる人の思いがあることを理解する。 ○伝統的な芸能やどぶろく祭りの歴史や願い、継承していきたい思いを考え、体験することができる。 ○探究する中で、芸能や祭りの魅力を未来に残すために粘り強く取り組んでいる人のよさから、自分にできることを考え、行動しようとする。	◆実際の社会の困り感(課題)を解決する実践Ⅱ(18)「しらみずの湯学園定食プロジェクト」 ○事業者の思いや顧客のニーズなど、他者の意見を取り入れて商品開発する必要があることを理解する。 ○人を集めたいという願いから問いを見出し、取材や市場調査から情報を収集し、検討を繰り返しながら、学園定食を立案し、提案することができる。 ○学園定食の提案に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に白川村の地域の活動に参画しようとする。
6	◆白川村観光大使(13) ○白川村の観光大使として、5年間の学習成果を理解するとともに、効果的な発信の仕方を理解する。 ○白川村観光大使として、直面した課題について克服する学習を通して、より質の高い観光ガイドになるよう工夫・改善したり、白川村の一員として、これまで学んだ村の自然・伝統・芸能等の魅力の発信の仕方を考え、実践したりすることができる。 ○探究する中で、改めて白川村の魅力に気づき、粘り強く観光ガイドの仕方を追究しようとする。	◆観光客のニーズや困り感に応じた観光案内への質的向上(15) ◆会社立ち上げから決算までを学ぶ(7)「ビジネスチャレンジ!」 ○白川村の魅力はそれを守り続けている人によって創られていることを理解する。 ○白川村の一員として、これまで学んだ村の自然・伝統・芸能等の魅力の発信の仕方を考え、実践することができる。 ○白川村観光大使として直面した課題について克服する学習を通して、より質の高い観光ガイドになるよう情報を整理し、工夫改善しようとする。
7	担い手体験(職場体験) ○白川村で働く人々の仕事や込めている思いを理解する。 ○担い手体験を通して、白川村で働く人々について調査し、学んだことを自己の生き方に生かすことができる。 ○目的をもって担い手体験に取り組み、自分のよさに気づき、粘り強く取り組もうとする。	◆「白川郷学園ビジネスコンテスト(35)」 ○ビジネスの力で課題解決をするための基礎的・基本的な考え方やアプローチの仕方を獲得することができる。 ○社会の中にある困り感から課題を見だし、困り感を解決するためのビジネスプランを異年齢の仲間やメンターと協働して練り上げ、考えを伝え合うことができる。 ○持続可能な社会づくりに貢献することのよさに気づき、これからもよりよい社会に貢献したいという実践意欲をもつことができる。
8	学園広報 ○白川村や学園を紹介する効果的な方法を理解する。 ○白川村や学園のよさを紹介するために必要な情報を収集・分析・整理し、プレゼンに効果的・魅力的にまとめて表現することができる。 ○探究する中で、白川村や学園のよさに気づき、よりよいプレゼンにしようとして粘り強く取り組む。	
9	研修旅行の企画「外から見た白川村」 ○東京都と白川村との違いを理解する。 ○研修旅行を通して、東京都と白川村のそれぞれの特徴について調査し、改めて白川村のよさや魅力に気づき、表現することができる。 ○探究する中で、白川村や学園のよさに気づき、未来の白川村の創り手になろうとする意欲を高める。	

■うみだす児童生徒の姿

本物に触れる豊かな体験を通して、白川村、村民の中に根付いている魅力を体得し、表現していく姿

社会の中にある「困り感」から課題を見出し、それらを解決するために仲間と共同して挑戦したり失敗を生かしながらやり抜いたりすることを通して、社会の一員として新たな価値を創りだしていく力